

おいでよしかわまちへ！ 「農泊で楽しもう」

●「農泊」とは

農山漁村に宿泊し、滞在中に地域資源を活用した食事や体験、交流等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」を「農泊」といいます。

国は地域が一丸となって、「農山漁村滞在型旅行」をビジネスとして実施できる体制整備を期待しています。

平成29年度より農泊に取り組む地域への支援を開始し、令和元年10月までに日本全国で累計515地域が採択されています。(福島県は11地域)

●石川町 (いしかわまち)

縄文時代の祭祀遺跡、和泉式部伝説、陸奥一の宮(イワツツコワケ神社)などがあり、古くから地域の中心であったことを語っています。

町で最も知名度が高いと思われる「学法石川」は、福島県では最初の私立学校です。町内に4つ温泉のある湯治場であったことから、遠来のお客をもてなすホスピタリティが定着しています。

町は3.11のあと、「福島復興の先頭に立つ」と旗を掲げてきました。ふさわしい企業、リーダーが現れています。

●石川町農泊推進協議会メンバー

協議会の所在地は山橋地区。大竹会長は本業のかたわら、砂風呂「楽々」の事業をなさっています。ホテルの森交流会の代表でもあり、イベントには薬師寺のお坊さん・徹獎師がみえて法話があります。

「農園C a f e やい子ばあちゃん」は、農業体験、食事、宿泊が可能で、すでに農泊を実現しています。ホームページ(HP)、ブログ、SNSなど情報発信にも熱心です。塩の沢温泉「しおや」は、山間の素朴な湯治宿です。汗をかいたときには「立ち寄り湯」を利用できます。良質のそば粉を使用した、ご主人の「手打ち十割そば」が売りです。

●協議会への提案

「農泊なら いしかわまち」と言われる日の到来を期待します。3つの提案をしました。

1. 作成した「農泊パンフレット」の更新、HP、ブログ、SNS等の継続的発信。
2. ターゲットの追及、旅行代理店の選定。(大手を含む)旅行関連会社11社を販促訪問しましたが、「石川町、農泊」に興味を示す旅行代理店もありました。
3. 母畑温泉の宿泊客(年間200千人)を対象にした「農業体験+ランチ」の1日旅行。母畑温泉の連泊ニーズは高いと思われます。